TRAFFIC INFORMATION

あやめバス運行中

新発田の市街地を廻る「あやめバス」が運行中です。
市内の観光やちょっとしたお買い物に、どうぞご利用ください。

［運　　賃］ひとり1乗車100円（小学生50円、未就学児無料）
［回　　数　券］「新発田市コミニュニティバス」の回数券と共通。
1,000円分回数券（100円×11枚つづり）、
500円分回数券（50円×11枚つづり）
［回数券販売場所］新発田市観光情報センター、あやめバス車内ほか
［お　問　合　せ］新発田市市民まちづくり支援課　☎0254-28-9644

レンタサイクル

［貸出場所］新発田市観光情報センター（新発田駅から徒歩1分）
［貸出期間］4月1日～11月30日、レンタサイクルは8：30～15：00
（最終返却16：30）
［貸出料金］400円（電動アシスト付自転車800円）

［WEB予約］

※貸出期間内であっても悪天候により貸出ができない場合があります。予めご了承ください。

蔵春閣と
喜八郎のみち編も
ございます

イベント情報や季節のたよりなど
新発田の町なかの魅力を発信してます!

#しばた町めぐり

しばた町めぐり
公式サイト

インスタグラム
はこちらから!

■新発田市観光情報センター　新潟県新発田市諏訪町1-2-11　イクネスしばたMINTO館内　☎0254-26-6789
■新発田市観光振興課　新潟県新発田市諏訪町1-2-11　イクネスしばたMINTO館内　☎0254-28-9960

発行／2024年3月

しばた
町あるき

SHIBATA MACHIARUKI GUIDE MAP

水のみち編

新潟県新発田市

新発田川と歴史をたどるまち歩き

人々の暮らしに寄り添うように
市街地を流れる新発田川。
川沿いをそぞろ歩けば、
あちらこちらで
懐かしい風景と出逢うことができます。
川の流れと歴史をたどって
「水のみち」を歩いてみませんか?

水のみちコース

寺町通り
↓ 徒歩5分
双子蔵
↓ 徒歩5分
いいでの湯・親水広場
↓ 徒歩2分
武庸橋（たけつねばし）
↓ 徒歩5分
庚申堰（こうしんぜき）
↓ 徒歩2分
神明宮

所要時間:約1時間

SHIBATA MACHIARUKI MAP

しばた町あるきマップ

水のみち編

新発田のまちなかには、
大倉喜八郎ゆかりのスポットも
点在しています。
生誕の碑、「旅立ちの松」など
若き日の喜八郎に想いを馳せながら
その軌跡を
探ってみませんか。

…町あるきの目印（標柱）

廣澤山 宝光寺（こうたくさん ほうこうじ）

新発田藩主、溝口秀勝侯の加賀大聖寺藩主時代に創建。秀勝侯の移封とともに1612（慶長17）年に現在地に移る。歴代藩主の菩提寺として初代秀勝侯から10代直諒侯までの歴代藩主がここに眠る。山門は新発田市指定文化財。

新発田市諏訪町2-4-17　☎0254-22-4376
浄見堂拝観料／200円（高校生以下無料）

寺町通りを散策

新発田駅から歩いて10分ほどの距離にある「寺町通り」は、宗派の異なる9箇寺が立ち並ぶ、風情あふれる通りです。凛とした寺の空気を感じ、歴史に触れながら、石畳の道を散策してみませんか？

瑠璃山 三光寺（るりさん さんこうじ）

1582（天正10）年創建。川東の三光村より現在の地へ移り、真言宗から浄土宗へと改宗。寺名も「得伝寺」から「三光寺」へ。「三光」は地名に由来するほか、「慈愛、慈悲、智慧」の三つの光を表す。江戸時代に新発田藩内で唯一、葵の御紋を許された寺として知られ、屋根のあちこちには御紋があしらわれている。

新発田市諏訪町2-3-25　☎0254-22-4467

上）本堂は国登録有形文化財
下左）本堂を支える4本の丸柱のうち3本は寺の境内に生えていた杉の木を使ったもの　下右）六道それぞれに衆生を救済するという六地蔵

寺町から少し足をのばして…

妙栄山 顕法寺（みょうえいさん けんぽうじ）

1660（万治3）年開山。1907（明治40）年に再建された本堂は、千鳥唐破風付き入母屋造で、安産・子育ての守護神、鬼子母神が祀られている。通称「しばたの鬼子母神」と呼ばれ、鬼子母神像は高さ4尺、子どもを連れた有角裂口の鬼形像で、毎年5月7・8日のみ御開帳となる。レプリカ（模刻）もあり、参拝者に公開可能。

新発田市大栄町2-4-21
☎0254-22-3892

上）山門脇に建つ開基堂には重家の木彫座像が納められ、山門前にはこれを模した石像も　下）境内にある羅漢堂の正面雛壇には十六羅漢像、側面のガラス展示台には重家ゆかりの品が展示されている

菩提山 福勝寺（ぼだいさん ふくしょうじ）

1394（応永元）年、南魚沼市の古刹、雲洞庵の和尚が開山。川中島の戦いで上杉謙信と共に戦うも、その後、織田信長と組んで上杉家に反旗を翻した戦国武将、新発田重家の墓所がある。本堂には誕生から涅槃に至るまでの釈迦の辿った出来事を表した6枚の彫刻が飾られており、仏教の開祖である釈迦の生涯を辿ってみるのも一興。

新発田市中央町2-2-7　☎0254-22-3556

＼寺町のどこかにいます／

松見山 法華寺（しょうけんざん ほっけじ）

1598（慶長3）年、初代藩主、溝口秀勝侯の命を受けて建立。山門には一対の仁王像が立ち、本尊の左側には、ボケ封じに優れた七面大明神が祀られている。赤穂義士の一人として知られる堀部安兵衛の生母が眠るほか、自らの命と引き換えに新発田藩を救った「塩止め事件」の義人、井上久助の碑も。

新発田市中央町1-4-10
☎0254-22-2981

1

2

3

4

1）自らを犠牲にして藩を救った井上久助の碑　2）御本尊の左側には七面大明神が祀られる 3）庭は遠州流・縣宗知の作庭　4）山門に建つ阿吽の仁王像。仏敵が寺に入るのを防ぐ

掲示板にも注目！

松霊山 長徳寺（しょうれいざん ちょうとくじ）

1585（天正13）年創建。赤穂四十七士のひとり堀部安兵衛ゆかりの寺として知られ、境内には、明治の浪曲師・桃中軒雲右衛門から譲り受けたとされる四十七士の木像をおさめた義士堂や、安兵衛が新発田を出立する際に植えたと伝えられる「手植えの松」（二代目）があるほか、2017（平成29）年には安兵衛の墓も建立された。

新発田市大栄町2-7-22
☎0254-22-6226

SHIBATA MACHIARUKI SPOT

水のみち散策

市街地を流れる新発田川。
懐かしい風景を辿りながら川沿いを歩いてみませんか?

まちなかを流れる新発田川は、かつて水上交通の水路として、生活用水として日常生活を支えてきました。また、新発田城築城の際にも、防御の役割を担うなど、まちの形成に深く関わってきました。様々な役割を果たしてきた新発田川周辺には、その歴史や文化、懐かしさを感じる風景やスポットが点在し、新発田の違った一面が発見できます。

寺町通り

宗派の異なる11箇寺が立ち並ぶ。石畳風の通り沿いに流れる水路では鯉が泳ぐ姿も見られ、城下町の面影と風情が感じられる。無料休憩所「寺町たまり駅」では、ランチのほかお土産も販売。

親水広場

2024年、「川戸」をイメージして新設された公園。新しい憩いのスポットとして注目される。

あやめの花

福勝寺裏には「新発田川を愛する会」が植えたアヤメも。5月中旬頃には美しい花を咲かせる。

カルガモの親子

カルガモが泳ぐ姿も。ヒナたちが母鳥にくっついて泳ぐようすは、なんとも愛らしい。

長谷川家住宅 双子蔵

明治期後半に建てられた2階建て切妻造りの土蔵。2棟の土蔵を瓦葺の大屋根で覆った特徴ある外観が趣深い。2021年、国登録有形文化財に指定。

いいでの湯

1895(明治28)年創業。120年の歴史をもつ新発田で唯一の銭湯。薪で焚くやわらかな湯が好評。第1・3日曜日には、おもちゃのアヒルが湯舟に浮かぶ「アヒル風呂」も。

新発田市大栄町1-5-1
☎0254-22-2455
15:00〜23:00(月曜休)

サウナもあるよ

神明宮

7代藩主溝口直温侯が伊勢神宮外宮の「豊受大神」のご分霊を祀ったのが始まりとされる。

新発田市大手町1-5-9
☎0254-23-1096

庚申堰(こうしんぜき)

下町交番横にある用水を調節するための堰。かつては見張り小屋があり、手動で調節していた。堰の下手には、新潟からの荷物が届く船着場があった。

武庸橋(たけつねばし)

新発田出身の赤穂義士、堀部安兵衛武庸の名を冠した橋。2013年に木製のものに新装。

川戸

洗い物をしたり、打ち水や植木用の水を汲んだり。かつては川沿いのどの家にもあった。

かつての風景

公設市場

昭和29年建築の水上市場。魚屋、乾物屋、花屋が営業していたが令和3年に取り壊された。

平久呉服店

1673(延宝元)年創業の老舗呉服店。現在の店舗は1935(昭和10)年頃建築の木造2階建て入り母屋造り。掃き出しの大きなガラス窓に囲まれた明るい店内が特徴。

若き日の喜八郎の足跡を辿る

喜八郎 旅立ちの松(材甚旅館跡地)

喜八郎が10代の頃、近所に住んでいた友人・白勢三之助の父が、新発田藩士が通る際に下駄を履いたまま土下座したことが見つかりお咎めを受けるという事件があった。これを理不尽に感じた喜八郎は、「こんな新発田にいても仕方がない。江戸で身を立てよう」と決意する。その決心を聞いた学友の原宏平(のちの初代新発田町長)は、旅立つ友のために上町の「材乙旅館」(現在市役所駐輪所付近)で二人だけの送別会を開く。向かいに建つ「材甚旅館」には一本の松の木が植えられており、江戸へ発つ前夜、二人は通り越しにその松を眺めながら酒を酌み交わし、故郷のために力を尽くそうと誓い合ったかも知れない。松は現在も旧北越銀行駐車場の跡地に残されている。

1

2

3

1)旧北越銀行駐車場跡地に遺る「旅立ちの松」
2)新発田幼稚園にて。中央が喜八郎、その右が原宏平　3)材甚旅館

生誕の碑

1837(天保8)年、大倉鶴吉(のちの喜八郎)は新発田藩の城下町、下町(現:大手町)に大倉家の三男として生まれた。1916(大正5)年、銅像の除幕式のために新発田を訪れた喜八郎が「ここが私の生まれた場所だ」と語ったという伝承をもとに、2001(平成13)年に石碑が設置された。石碑の正面にある「下町わ組会館」には、喜八郎の所蔵品や資料などが展示されている。

積善堂

喜八郎は、幼少の頃、近所に住む石川次右衛門より「四書五経」の素読を学び、その後、丹羽伯弘の私塾「積善堂」で本格的に学問を始めた。初代新発田町長の原宏平とは学友同志だった。「積善堂」の跡地である県立西新発田高校敷地内には碑が遺る。

大倉喜八郎プロフィール

1837(天保8)年、新発田生まれ。18歳で上京し、鰹節店の丁稚見習いから天性の商才と努力で大倉財閥を築き上げ、渋沢栄一らと共に、鹿鳴館、帝国ホテルなどを設立。近代日本の発展に大きく貢献した。

原宏平プロフィール

1838(天保9)年、新発田市上町の醤油醸造業「住吉屋」の分家に生まれる。幼名は亀吉。幼少の頃から大倉喜八郎と親しく、喜八郎の幼名は鶴吉だったため、「鶴亀」と呼ばれた。1889(明治22)年、初代新発田町長で「松堂」の号を持つ歌人としても著名。墓は新発田市相円寺にある。

おすすめ ランチ&カフェスポット

散策の途中に
おいしいランチのお店へGo!
地元の特産品を使ったメニューから、
ボリューム満点の庶民の味まで、
しばた自慢の味を楽しんで。

このポスターがめじるし!

＼ お得なサービスあります! ／

新発田市では、「市街地回遊プラン」を開催中! 参加店舗で蔵春閣の入館券を提示すると、お得なサービスが受けられます。ぜひ、ご利用ください。

サービス内容や本誌に掲載されていない参加店舗情報はQRコードから!

オススメ 紅茶とケーキ

② ココラテカフェ

パリの町に迷い込んだようなフレンチテイストの愛らしいカフェ。アンティーク風のテーブルや椅子が配された店内には、手づくり小物も並ぶ。ポットで提供される紅茶と手づくりのケーキに、ほっと心もなごむよう。

新発田市中央町3-1-1
☎0254-20-7482
[営]13:00〜18:00
[休]木・金曜

ブルーの外観がめじるし!

オススメ タンドリーチキンセット

① ハラールフード レストラン インダス

パキスタン出身の店主による本場料理が楽しめる。骨付き鶏モモ肉をスパイスやヨーグルトにひと晩以上漬け込んで作るタンドリーチキンと4種類から選べるカレーの『タンドリーチキンセット』が人気。

新発田市中央町1-2-2
☎0254-26-8539
[営]11:00〜15:00(14:30LO)、
17:00〜21:00(20:30LO)
[休]不定休

ボリューム満点!

オススメ 皿オッチャホイ

③ シンガポール食堂

看板メニューの「オッチャホイ」は、先代店主が幼少の頃にシンガポールの屋台で食べた味を再現したというオリジナル。モチモチとした麺の独特な食感と唐辛子が効いたスパイシーな味わいで、ご当地グルメとして地元民に愛され続けている。

新発田市中央町3-2-1
☎0254-22-3725
[営]11:30〜14:00、
18:00〜20:00
[休]水曜

汁オッチャホイもあるよ

オススメ ランチコース

市街地回遊プラン参加店

④ モントルー

創業40余年の老舗フランス料理店。ランチでもアミューズからアペリティフ、スープ、メイン料理にパン、デザート、コーヒーとプチフールまでの本格コース料理をリーズナブルに堪能できる。

新発田市中央町2-4-15
☎0254-26-1526
[営]11:30〜14:30(LO)、
17:30〜20:30(LO)
[休]火曜、ほか不定休あり
ディナーは要予約、ランチも予約がベター

この外観がめじるし

オススメ 季節のコース

⑥ 手紙

完全予約制

地元の旬の食材と新発田牛を使った会席コースが堪能できる店。季節感を大切に、器にまでこだわって丁寧に提供される料理はどれも絶品! 「新発田牛の炭火焼」と炊きたての土鍋ご飯が美味のランチ限定ショートコースもおすすめだ。

新発田市中央町3-5-7
☎0254-21-2950
[営]11:45〜13:30(LO)、
18:00〜21:15(LO)
[休]毎週月曜、第3日曜

隠れ家的なお店

オススメ ローストビーフ定食

市街地回遊プラン参加店

⑤ 食彩酒蔵 ichi5(いちご)

地場産食材を使った創作料理が人気。ランチのイチオシはボリュームたっぷりの「ローストビーフ定食」。新発田牛の「牛赤身ステーキ定食」や季節限定の「鮭いくら丼」もおススメだ。2皿選べる小鉢もウレシイ。

新発田市大栄町7-1-9
☎0254-28-7443
[営]11:30〜14:00(13:30LO)、
18:00〜23:00
[休]日曜、ほか不定休あり

選べる小鉢がウレシイ!

オススメ ピザトースト

⑦ 喫茶 2楽章

アンティークな雰囲気の店内に静かに流れるクラシックの調べ。壁には世界中から訪れた演奏家たちのサインも残る。“音楽”が主役の喫茶店ゆえ、ランチメニューは「ピザトーストセット」のみ。芳醇なコーヒーも絶品だ。

新発田市中央町3-8-5
☎0254-24-1260
[営]10:00〜22:00
[休]火曜

アンティークな店内にも注目

オススメ 自家製ピザ

市街地回遊プラン参加店

⑧ 煉瓦屋

創業40年以上という喫茶店。各種スパゲッティや自家製ピザなどのランチはどれも絶品。開店当時から変わらないノスタルジックな店内で、サイフォンで丁寧に淹れた香り高いコーヒーをゆっくりと楽しみたい。

新発田市中央町3-7-5
☎0254-24-1941
[営]9:30～20:00(19:30LO)
[休]水曜、ほか不定休1日あり

ホットサンドも!

オススメ 山菜ピラフ

⑨ 木馬

古き良き昭和の香り漂う喫茶店。こだわりのコーヒーはもちろん、えのき、しいたけ、しめじ、タケノコなどがたっぷり入った「山菜ピラフ」はここでしか味わえないメニュー。ほっと心癒されるひとときを楽しんで。

新発田市大手町1-2-18
☎0254-24-8666
[営]10:00～15:30
[休]日曜

レトロ喫茶好きはぜひ!

オススメ ローストビーフ丼

市街地回遊プラン参加店

⑩ おだいどころ さくたろう

看板メニューは県内産の食材にこだわった「元祖ローストビーフ丼」。まるごと1本を低温調理するモモ肉のローストビーフは旨味が凝縮され、まさに絶品! ワサビを使った和風味の「白味噌と醤油仕立ての牛すじスパイスカレー」も人気。

新発田市大手町1-1-9
☎0254-20-8686
[営]11:00～15:00(14:30LO)
※材料がなくなり次第終了
[休]日・月曜、ほか不定休あり

スパイスカレーも!

オススメ ソースカツ丼

⑪ そば処 千代田

1932年創業の老舗そば処。自家製麺の中華そばに天ぷらを加えたユニークな「天ぷら中華」が名物。あっさりしょう油味のスープに揚げたての天ぷらが不思議に良く合う。戦前から人気だったという「ソースカツ丼」も。

新発田市大手町1-3-3
☎0254-22-2732
[営]11:00～12:30
[休]金曜

これが噂の天ぷら中華!

お土産スポット

…テイクアウトのみ

⑫ 翁屋

大正元年創業。翁の面をかたどった看板商品の「翁もなか」は全国和菓子品評会で名誉優秀賞を受賞し、60年以上にわたって愛される銘菓。こし餡と砂糖だけでつくる季節限定の「浪花かん」も。

新発田市中央町3-6-14 ☎0254-22-2710
[営]月～土曜9:00～17:30、日曜9:30～17:00
[休]水曜

市街地回遊プラン参加店

⑬ 宮澤屋

明治30年創業。レトロな店構えの店内には、お祝い事に欠かせない鯛の生菓子や紅白の千歳、しおがま、きな粉ねじり菓子など懐かしい菓子が並ぶ。丁寧に手づくりされた素朴な味わいに、心温まる。

新発田市中央町3-7-7 ☎0254-26-1512
[営]9:00～18:00 [休]不定休

市街地回遊プラン参加店

⑭ 江戸屋餅菓子舗

注文を受けてからその場で焼いてくれる「醤油だんご」をはじめ、「笹だんご」「豆大福」などが並ぶ。良質な県産もち米を杵でつく昔ながらの製法を守る餅菓子は、ふんわりとろけるようなやわらかさだ。

新発田市中央町3-8-9 ☎0254-22-3942
[営]10:00～18:00 [休]月・火曜日

⑮ ふくら

新発田商業高校「商業クラブ」の生徒が運営する空き店舗活用店。生徒が考案し、市内の企業とコラボして商品化した「藤倉メンチカツバーガー」や「アスパラピザ」など新発田の特産品を活用した商品が人気。

新発田市大手町1-2-19
☎0254-26-1388(代)(新発田商業高校)
[営]土曜10:00～15:00(学校行事等で休業する場合あり)

昭和期の商店街

1973年、新発田初の百貨店、ハヤカワデパートが開店。その後、ダイエー、ジャスコが続き、デパート3店舗が営業していた。デパートには屋上遊園地が設置されており、家族連れが詰めかけた。当時の新発田市は阿賀北地域の商業の起点として栄え、山形県小国町など県外からもわざわざ買い物客が訪れるほど活気づいていた。歩道は人々で賑わい、ぶつからないように歩くのが難しいほどであった。

◀昭和40～50年代頃のハヤカワデパート周辺のようす

初売りで賑わう商店街▶
1980(昭和55)年
1月2日撮影

写真提供／サンチャン写真館